

環境会計

環境保全活動を定量的に把握し、効率的に推進していくために2004年度より環境会計を導入しています。

基本的事項

集計範囲

株式会社長谷工コーポレーションの活動

- ①完成工事159作業所(新築：131、解体：28)
- ②オフィス(東京地区：芝本社ビル・横浜支店、
関西地区：大阪平野町ビル、名古屋支店・京都支店)

対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日

集計方法

「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)、「建設業における環境会計ガイドライン2002年版」(日建連)を参考に、以下の項目について集計しました。

(1) 事業エリア内コスト

- 1) 公害防止コスト：大気汚染、水質汚濁、騒音・振動防止対策等の費用を集計しました。
- 2) 地球環境保全コスト：温暖化防止、省エネ、オゾン層破壊防止対策等の費用を集計しました。
- 3) 資源循環コスト：廃棄物の分別・リサイクル、適正処理等の費用を集計しました。

(2) 上・下流コスト

環境配慮設計提案に要した人件費を集計しました。

(3) 管理活動コスト

環境保全管理活動費及びISO14001：2015運用・維持費を集計しました。

(4) 研究開発コスト

環境保全に関連する研究・技術開発費を集計しました。

(5) 社会活動コスト

環境関連団体・地域への寄付、支援等の費用を集計しました。

(6) 環境損傷コスト

周辺環境補修費を集計しました。

環境保全コスト

分類	主な活動内容	費用額(百万円)				
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業エリア内コスト		3,789	3,424	4,191	4,006	5,216
①公害防止コスト	作業所での公害防止対策費	331	309.4	392.8	559.2	519.9
②地球環境保全コスト	アイドリングストップ活動費、フロンガス適正処理費	7	8.3	13.4	21.2	13.5
③資源循環コスト	建設廃棄物の分別・リサイクル、適正処理費	3,451	3,106	3,784.8	3,425.2	4,683
上・下流コスト	環境配慮設計人件費	9.2	8.4	10.9	8.8	12.3
管理活動コスト	ISO14001 登録・審査・運用費 ISO14001 活動人件費 環境負荷監視測定費 環境関連教育費	267	219	413.9	260.8	377.1
研究開発コスト	環境関連技術の研究・技術開発費	67	75.5	88.3	94.9	108
社会活動コスト	環境関連団体・地域への寄付金	1.1	0.3	0.4	0.6	0.4
環境損傷コスト	周辺環境補修費	97	83	144.5	76.6	110
環境保全コスト総額		4,230	3,810	4,849	4,447	5,824

環境保全効果

項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
事業エリア内の効果	施工活動	建設廃棄物排出量	千t	495.8	416.8	520.2	538.3	565.5
		建設廃棄物再生利用量	千t	457.2	404.3	498.7	532.7	538.8
		建設廃棄物最終処分量	千t	38.6	12.5	21.5	5.6	26.7
		CO ₂ 排出量(新築工事)	千 t-CO ₂	37.9	35.3	28.9	34.7	36.6
		CO ₂ 原単位(新築工事)	t-CO ₂ /億円	11.31	11.04	10.43	10.53	10.21
上・下流の効果	オフィス活動	電力使用量	千 kWh	6,147	6,254	6,222	6,347	6,386
		コピー用紙使用量	万枚	1,788	1,998	1,813	1,841	1,778
		CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,111	2,145	2,113	2,159	2,165
		一般廃棄物排出量	t	51.7	71.1	80.1	57.0	44.3
上・下流の効果	グリーン調達	電炉鋼材(鉄筋)	千t	233	211	194	203	228
		高炉セメント生コン	千m ³	254	206	255	176	225
		再生利用タイル	千m ²	434	439	310	302	356
		再生石膏ボード	千m ²	4,570	6,142	4,055	4,566	4,765
		パーティクル材(二重床)	千m ²	147	209	96	189	255
		スチレン素材(壁下地パッキン)	m ³	368	375	326	395	419
		節水型便器	千台	16	16	18	16	20
		屋上・壁面緑化	千m ²	5	4	9	11	11
		浸透性舗装	千m ²	16	20	21	16	26
		SUS管(共用部給水配管)	t	99	105	98	84	53
		Hfインバータ方式照明器具	千台	15	18	24	39	50
		長尺塩ビシート	千m ²	198	196	297	280	383
		押出し発泡ポリスチレン	千m ³	-	-	4	4	4
		ノンフロン発泡ウレタン	千m ²	-	-	-	-	389
文房具グリーン購入率	%	91.0	92.3	93.1	93.8	93.9		

※上・下流の効果、グリーン調達：押出し発泡ポリスチレンは、2016年度、ノンフロン発泡ウレタンは、2018年度より算出しています。

集計の結果

- 2018年度に支出した環境保全コストの総額は、5,824百万円でした。2017年度と比較して、1,377百万円(31%)増加しました。
- 環境保全コストの89.6%が「事業エリア内コスト」で、そのうちの89.8%を「資源循環コスト」が占めました。資源循環コストは2017年度と比較して1,258百万円(36.7%)増加しました。
- 建設廃棄物排出量は、2017年度と比較して27.2千 t (5.1%)増加しました。
- 施工活動のCO₂排出量(新築工事)は、36.6千t-CO₂でした。2017年度と比較して1.9千t-CO₂(5.5%)増加、原単位での比較では10.21t-CO₂/億円で0.32t-CO₂/億円(3%)減少しました。
- オフィス活動によるコピー用紙使用量は、1,778万枚でした。2017年度と比較して63万枚(3.4%)減少しました。
- オフィス活動のCO₂排出量は、2,165t-CO₂でした。2017年度と比較して6t-CO₂(0.3%)増加しました。